

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「助け合って生き生きと、助け合っていつまでも、助け合っで暮らしたい」を基本理念に掲げ、職員のネーム札の裏に記載されたり、廊下やホールなどにも掲示されている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の意味を理解し、サービス場面に反映させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホールや廊下、玄関に掲示し、パンフレットの表紙や便りに明示し入居者や家族に説明している。便りは民生委員の方にも配布している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	保育園行事の参加や、地区の文化祭への作品出品をしたり、文化祭の歌や踊りの見物にでかけたり、ねふた太鼓体験にでかけたりと地域の方との交流機会が持てた。犬の散歩中の方と敷地内にて挨拶を交わすこともあり、徐々に地域の方との関わりが見られている。回覧板を届けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員も一緒に自己評価し、よりよいサービスを提供するための取り組みをしている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果について公表し、結果を基にして改善策を話し合っている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ、地域の方は運営推進会議に参加するときのみ来ている。その際に現場の実態を伝え、入居者や家族と共に課題解決について話し合っている。	○ 運営推進会議以外にも気軽に行き来する機会を考えたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会が少なく理解不足である。	○ 全職員が理解を深めるようできるところから取り組みを行う。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないことを全職員が理解し取り組んでいる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は入居者や家族に方針や取り組みなどについて説明を行い、同意を得ている。退居の場合も同様。退居先の情報提供を行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見や苦情を話しやすい雰囲気作りを心掛けている。運営推進会議にて、話題になることもある。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に近況報告をしている。また、受診報告、状態報告も電話やFAXなどで伝え個々に合わせた対応をしている。便りに普段の様子を載せている。出納帳は、領収書と一緒にコピーを毎月送っている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に個別で話す機会を持つようにしている。また、ご意見箱を設置している。	○ ご意見箱の利用は見られていない。直接話せるような雰囲気作りをしていきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月会議を開催し職員の意見交換をしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時には勤務職員を多くするなど人員配置を調整し状況に応じ対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響を理解しており、残る職員や新しい職員への引き継ぎを行い入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。入居者への説明は影響を心配してこれまでされていない。	○	これまでは、新しい職員が来た時点で説明している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講後は、報告書を作成し会議時に報告して日々のケアに活かせるようにしている。研修受講するための勤務体制が少々難しいことがある。	○	個々の力量や経験に応じた研修を受講できるように検討する。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流機会は持たれていない。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場内でもコミュニケーションが取りやすい雰囲気がある。デイサービスなどの職員も交えて親睦会も行っている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場の状況や職員の勤務状況を把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があったときには、入居者や家族と直接話す機会を持ち、希望や思い、ニーズを把握するように努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の入居者と家族に対し、何が必要かを見極め、対応できることについては柔軟に対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して生活できるように居室に使い慣れたタンスやソファなどを置いたり、本人のペースで生活しながらなじめるように気を配っている。食事席も配慮している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	否定せずに本人が納得できるようじっくりと話を聞いている。また、それぞれのできることを（雑巾縫い、漬け物作りなど）行うことで職員との支え合う関係が築けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い入居者の様子を伝え、家族の思いの把握に努め、入居者を共に支える取り組みについて考えている。毎月の便りには職員からのコメントを書いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	こちらから家族へ日々様子を面会時や電話やFAX、手紙などで伝えている。家族からもFAXや手紙などお返事いただくことである。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容院は希望に添いなじみの所に出かけている方もいる。電話やハガキにて連絡をし関係が途切れないように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の仲の良し悪しなど把握し、よりよい人間関係作りを築けるように配慮している。トラブル発生時には職員が介入することもある。	○	一人で居室で過ごすことを好む方は、本人に任せている。行事などには声掛けし他入居者と関わる機会をもっている。普段少しでも関わる機会が持てるよう場面作りを工夫する。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて、家族の相談に応じ、これまでの関係を継続するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と会話する機会を増やし、様子観察し本人の思いや希望の把握に努めている。必要に応じて家族からの情報収集を行っている。	○	更に入居者一人ひとりの思いをじっくりと聞く時間を持ちたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や個性などについて家族や本人から情報収集し、それぞれのリズムでの生活支援に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活リズムを把握するよう努め、食事や睡眠、排泄など必要に応じて援助している。	○	日々の生活を通して入居者のできること、わかることを把握し、ケアに活かしていきたい。ホールで過ごす時間が長い方の過ごし方を工夫する。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には、本人や家族の意見を反映させ、また全職員で話し合いをし作成している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示して期間終了後は全職員で話し合い、見直しを行っている。期間に関わらず、入居者の変化に応じて随時見直しをし、新たな計画について家族の希望や意見を確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの記録ファイルがあり、その日の様子や身体状況、職員のケアの状況などを記録している。全職員がいつでも見られるようになっている。	○	申し送りなどで情報交換はされているが、職員は勤務日以外の記録にもきちんと目を通すように心掛ける。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて地域の方の宿泊を受け入れ、入居者とともに過ごす時間を設けている。入居者の家族の宿泊にも応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の希望に応じ図書館利用が継続されている。民生委員や消防署の協力は得られている。	○	毎月デイサービスへ朗読のボランティアの方が来ているので、参加している。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて支援するようにしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところは困難事例がないが、その場合には地域包括支援センターと連携し支援していく体制である。運営推進会議において話し合う機会を増やしたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分に話し合いをし、納得していただいている。住み替えによるダメージを防ぐため、情報交換を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年長者と接するうえでの適切な呼びかけや声掛けをし、入居者のプライバシーに配慮している。個人情報、入居者や面会者の目につく所には置かないようにし、ホールでの記録の際も気をつけている。	○	職員間の会話や申し送りで、個人情報に関しては入居者の前では控える。また、トイレなど共用で使用する場所には個人の物をわかるように置かないように配慮する。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望が表しやすいような雰囲気や場面作り、声掛けに配慮する。一人ひとりの力量に応じて洋服の選択や食べたい物の決定、お手伝いの希望などをしていただく場面を作っている。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の言動をせかさず見守り、一人ひとりのペースや身体、精神状況に合わせての支援を心掛けている。特に全員での食事やお茶は、それぞれのペースで過ごせるように支援したい。	○	職員側の都合で早めの下膳をせず、ゆっくりと会話しながら過ごせるよう支援する。個別の外出への対応を増やすための工夫。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容院にホームに来てもらったり、馴染みの美容院へでかけたり身だしなみできるよう支援している。	○	行事や外出の声掛けには、アクセサリーをつけたり普段より念入りにお化粧されている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や好みにあわせて工夫されており、入居者と職員と一緒に準備や盛りつけ、片付けをしている。朝と夕は職員も一緒に食事している。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食後の飲物は本人の好みに合わせて提供している。おやつでもせんべいが好きでない方には和菓子の提供するなど好みを大事にしている。居室でのおやつも力量に応じて管理してもらい、制限がない方は自由にたべている。	○	自分から希望を話さない入居者にも好みのものを提供するため、本人へ、家族へと働きかける。
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや力量を把握し、状態に応じて誘導や介助している。介助や失禁の際は、プライバシーに配慮している。	○	排泄の失敗や失禁を減らせるようトイレ誘導、介助を必要に応じて行う。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2～3日に1度の入浴ができるようにしている。入居者の入浴順番好みや入浴方法などを把握しその人にあわせて支援している。入浴を拒否する方に対しては、声掛けの工夫、タイミングなど配慮している。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、眠れない方については原因を探り、一日の生活リズムを整えるように支援する。それぞれの生活時間を大事に対応している。	○	場合により午睡への誘導あり。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれができることは行って頂くように配慮し職員は見守っている。掃除や裁縫、食事の盛りつけ、読書やぬりえなど楽しみや役割意識が一人ひとり持てるように支援に努めている。	○	偏りがあることへの配慮、役割が負担にならないようにする、役割へ固執しないように支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に応じて支援し、預かり金とは別に、小遣い程度は財布に入れ所持している方もいる。買い物の時には、力量に応じ支払いの支援をしている。	○	買い物に行き支払いの機会が持てる入居者はだいたい決まっているため、あまり買い物に出かけない入居者にも買い物機会を設けたい。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や図書館、美容院への外出はしているが、その日の希望に添って個別に自由にでかけることは難しい。その他、散歩や回覧板を届けに外出している。	○	花見、ねぶた見物、紅葉見物、外食とできるだけ入居者全員での外出の継続。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に買い物や食事に出かける場合、家族と共に出かけていることもある。普段は行けないチャリティー茶会への参加はよかった。ねぶた見物に面会家族が同行された。	○	入居者が行きたい場所の希望が出しやすいような雰囲気作り、働きかけをする。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があったときの電話連絡、荷物が届いたお礼状、暑中見舞いや年賀状と家族や友人に便りする支援をしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人など面会時には、過ごしやすい雰囲気作りを行い、ホール、居室、小上がりなど場所に配慮し、お茶やお菓子の提供している。家族の宿泊の希望に応じる体制ができており、寝具や食事などの提供を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを全職員が認識しており、身体拘束は行われていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族に説明を行い同意を得るようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量が多い立地場所であること、建物の構造上グループホームが2、3階となっているため、家族には同意していただき玄関に常時施錠している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に入居者の様子を見守りやすい場所にいるようにし、プライバシーに配慮しながら把握に努めている。	○	主に居室にて過ごす方の様子にも配慮する。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況により居室の物品を考慮し危険がないように保管している。	○	入居者全員の集う場所の物品についての検討。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	未然に防ぐために気を配り、一人ひとりの状態に応じ声掛け、見守りなど対応をしている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急用の対応マニュアルが作成され緊急時の手当ができるようにしている。また、緊急時の連絡網の確認をしている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。	○	地域の方の協力を得られるように働きかける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の近況報告をし、起こり得るリスクについて説明し家族と共に対処を話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りや申し送りノート、個人記録を活用し情報伝達され必要に応じ速やかに対応している。また、毎月会議を開催し職員の意見交換をしている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員で薬を管理しており、薬の説明書はファイルしいつでも見られるようになっている。毎回入居者の名前を確認し服薬支援している。薬の変更に関しても申し送りをしている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、朝と午後にラジオ体操を行っている。その他、排便確認により、水分の摂取量や飲食物の工夫、運動を一人ひとりにあわせて行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、介助が必要な方には支援し、声掛けのみの方は見守りしている。	○	義歯洗浄剤の活用、ブラッシングの習慣により以前より口臭が減っている。今後も継続したい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をチェックし、一人ひとりの状態に応じお粥にしたり、ゼリーの提供、量の配慮や食事環境に気を配っている。	○	入居者により好き嫌いがあるため、調理方法や声掛けを工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日頃から外出後の手洗い、うがいの励行を行っている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理時の手洗いや、調理用具などの消毒行い、安全な食材使用と管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの玄関は、建物の裏側にあるためわかりづらい。併設のデイサービスの玄関や職員用の玄関はわかりやすいので、そちらから温かく出迎えるようにしている。	○	普段の出入りは少ないが、グループホームの玄関もプランターを置いたり、草取りや掃除したり、冬には雪かきを行っている。
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂には季節感が感じられるよう装飾したり、ホールには洗濯を干したり、鉢植えを置くなど生活感が感じられる。ロールカーテンにより光の調整できている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーやテーブル、畳の小上がりがあり、また廊下にも長椅子を置き、入居者がそれぞれの場所で休まれたり、数人で過ごせるように整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	各居室には以前から使用していたタンスやソ ファー、テーブル、写真や人形など馴染みの品が 持ち込まれており、過ごしやすい環境となるよう 工夫している。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	職員が各所に設置されている温湿度計を随時確認 し調整している。本人の体臭、失禁により臭いや 空気のだよみがある時は、換気扇や窓を開け対応 している。居室と廊下の温度差が大きく寒い。	○	夜間がまだ寒いことはあるが、廊下へのオイル ヒーター設置により、以前よりは居室と廊下の温 度差が少なくなった。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	浴室の段差は、声掛けや介助により今のところは 不便さはない。居室にポータブルトイレ設置、洗 濯干しなど必要に応じて個別対応している。	○	階段の証明が暗いこと、トイレの手すりは入居者 の状態により今後検討が必要。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人ひとりができることは行っていただき見守り をしている。急かさず、個々のペースにあわせ て、必要であればさりげなく手助けしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	屋上にプランターを置き、野菜や花を育てたり、 夏場は洗濯物を干している。廊下やホールに装飾 を工夫し、季節感を出している。	○	特定の入居者により、皆で過ごすホールにプラン ターなどを置けなくなっているため、工夫が必要。 1階ホールの活用を検討する。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「助けあって生き生きと 助けあっていつまでも 助けあって暮らしたい」の理念のもと、入居者それぞれができることをしていただき、入居者同士が協力しあえるように職員が支援している。